

home page 更新時に四季折々の花・風景 そして 好奇心一杯でトライしたことや
その時折々 頭にあることを綴ったメモなどを集めました
和鉄の道・Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。
ヒットライトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、
維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、
約 800 年の長きにわたってたたら製鉄法の模索が続き、その技術を
さらに磨き高めながら 1500 年続いてきた日本独自の製鉄技術。
「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、
一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、
現在に至る日本を作ってきた。
今、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘
れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとし
ている。和鉄の道での数多くの人たち・賑わい そして数々のドラ
マが、周りの美しい景色とともにうもれて残っています。
そんな日本で繰り広げられたドラマ そして その痕跡の風景を少し
でも残しておきたいと home page に掲載してきました。



へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。
ねこがわらう。おなががいっぱい。やぎのんび
りあるいる。ちょうめいそうがたくさんはえ。
よなぐにうまが、ヒューンとなく。
みんなのこころから、へいわがうまれるんだね。
これからも、ずっとへいわがつづくように。
ぼくも。ぼくのできるこころががんばるよ。
安室有生ノ詩 長谷川義史ノ画

ほぼ毎月更新してきた Home page のトップには
その四季折々 私の好きな花・好奇心いっぱいに取り組んだこと・
Country walk の風景などを紹介するとともに その折々 頭にあ
った時代の流れ・技術・社会などへの自分の思いを From Kobe として
書き綴って掲載してきました。
home page のトップページは更新ごとに消えてしまうので、
その時々を忘れぬよう残しておきたいと「四季折々・From Kobe」と
して ファイルし、それを毎年一冊の小冊子にまとめています。

神共に居まして
得られるものを 変える「勇氣」
変えられないものを 受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける「叡智」を
ニーバーの祈り より
「まあええか 元氣だして行こうと
心は行ったり来たりですが
好奇心さえあれば…と前向いて
お互い笑顔で 前向き思考 元氣で乗り切って行きましよう

その年四季折々自分勝手なわがままな 1 年間のメモ記録です
が、記憶を思い起こしたり、我が身を振り返えたり。
自分の生きる指針でもあり、また 1 冊積み重ねました。
また、どこかで、皆さまのお役に立て

災害や病気など難多の困難の中に居られる方にエールを !!
いつも 思いをはせています。♪
「忘れまい 忘れないで 仲間がいる」
暖かい希望の輪がつながっていることを」♪



世界に類のない一万年も平和で豊かな生活が続いた日本の「縄文」
そのエンジンは「他人を思いやる心」
北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に

仲間が頼りですが、
まだまだ元氣、好奇心もある
愚直は言うまい
お互い「前向いて」
今できることを精一杯
from Kobe
by Mutsu Nakanishi



Home page 更新時の top page を集めて収録しています

年賀	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

1 月年賀 迎春の便り

1. 迎 春
2. 心の故郷「縄文」そして「鉄」に思いを寄せて
3. 1.17. 阪神淡路大地震 忘れまい 忘れない
ルミナリエの灯とともに
4. 老齡の身 厳しい激動の時代 お互い笑顔で
5. 今月の更新記事リスト

2 月如月 福は内 鬼も内

1. 春迎え 福は内 鬼も内
2. 神戸の鬼・仲間の鬼 動画&Photo 収録・
3. 寒い冬の日 ひだまり ほっこりと
4. シアバクテリアが作った大気酸素の時間軸
5. 冬の夕暮れ 明石大橋に沈む夕日
6. 今月の home page 更新記事

弥生3月 春はすぐそこに !!

1. どこかで春が生まれてる 新しい時代に向かって
2. 西神戸の春を知る梅見 今年は梅につぐみ
3. 西神戸の春の味覚 伊川谷森本さんのイチゴ
4. 和鉄の道・風来坊・四季折々2018 の製本
5. 今月の home page 更新記事リスト

4 月桜満開 春爛漫

1. 4 月 21 日 Happy Easter
2. 新生の息吹に満ちる神戸の春 一気に華やぐ
3. 春の息吹 スライド動画で
◎日本各地の里の一本桜
◎2019年神戸の春の photo Album
4. 尼崎城オープン
5. 和鉄の道 今月のトピックス
トルコで世界最古の鉄 ヒツタイト鉄起源説に一石
人工鉄・製鉄技術の起源 &
西ユーラシア大陸を結ぶ《Metal Road》を探る
6. 今月の home page 更新記事リスト

7 月 遅れた梅雨から酷暑の夏へ

経験したことのない初夏

1. 7 月のはじめ 夏の歳時記
京和菓子「水無月」& 半夏生
2. 梅雨時のもやもやをふっとばす入道雲
3. インターネット暗号化処理対応

4. 和鉄の道 トピックス

徳島で出土の弥生中期末・後期の大交易拠点
生産工房集落 加茂宮ノ前遺跡

5. 今月の home page 更新記事リスト

8 月 ひまわりの夏

ひまわりの夏到

【動画】東播磨 小野市ひまわりの丘 & 西播磨
古代たたら郷のひまわり畑を訪ねる

体調変化に気を付けて

この厳しい夏を乗り切りましょう

9・10 月 Happy Autumn 秋迎え

1. 2019 西神戸・東播磨田園 秋の風物詩
2. 夏から初秋へ 入道雲から秋雲へ
3. 今月の和鉄の道 トピックス

弥生時代後期に淡路島や阿波で出土した鍛冶工房
「卑弥呼・初期大和王権国造りに繋がるのか？」

4. 今月の home page 更新記事リスト

11 月 Happy Autumn[2]

秋桜 2019 秋 まっ盛りに

1. ラグビーワールドカップの試合にかじりついて
2. 深まりゆく秋の風物詩 秋桜
3. かつて関西で盛んだった綿花栽培 志方の里で
4. 今月の和鉄の道 トピックス
旧東海道 京都三条通 栗田口
謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地を訪ねる
5. 今月の home page 更新記事リスト

12 月 2019 師走の便り

1. Merry Christmads!!
2. 神戸ルミナリエ まばゆい希望の灯
3. 秋の終わり 横尾山腹を真っ白に野路菊の丘
毎年の秋送り 荷窯を悼む
4. 師走のニュース 日本の現状に不安がよぎる
5. google 音声翻訳機 もう 20 年早かったら
6. 今月の和鉄の道 トピックス
角田徳幸氏著「たたら製鉄の歴史」紹介を兼ねて
たたら製鉄始まり 私の謎 砂鉄は海を渡ったのか？
7. 今月の home page 更新記事リスト

【From Kobe 1月 年賀 年の初め】

2019 年激動の時代に 希望を膨らませ、心も新た 今を元気に

fkobe1901nenga.pdf

◎ 収 録 心の故郷「縄文」と「鉄」に思いを馳せて

(h3101nenga.htm)

【From Kobe 2月 如月 節分 神戸便り】

fkobe1902.pdf

春迎え 2019 「福は内 鬼も内」

◎ 収 録

1. 日本各地に伝承されている鬼 鬼にされた愛すべき仲間の鬼たちに思いを寄せて
2. 朝日デジタル 最近の縄文の捉え方に警鐘をならす編集委員・宮代栄一氏の記事

「エコロジカルな縄文人」とのイメージについての記事に接しての Iron road 発信の私の思い

【From Kobe 弥生 3月 春の足音がすぐそこに】

fkobe1903.pdf

どこかで春が生まれてる

◎ 収 録 「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

経済同友会代表幹事 小林喜光氏 < インタビュー >記事 転記ご紹介

2019.1.30 朝日新聞朝刊オピニオン欄 掲載記事 平成から新しい時代に向かって

【From Kobe 卯月 4月 待ちかねた春 さくらと共に春爛漫】

fkobe1904.pdf

野山・海も街・里そして人も 新生の息吹に満ちて

新しい出会いと出発に日々あらた 平成最後の春を元気に!

◎ 再収録 平成から令和へ 新しい時代に向かって

小林喜光氏「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

【From Kobe 7月 神戸便り 遅れた梅雨のはじまりから酷暑の夏へ】

fkobe1907.pdf

遅れた梅雨の中で迎えた 7月 神戸便り 2ヶ月ぶりの更新 お元気ですか!!

経験したことのない初夏 目まぐるしく変わる気象変化に負けぬよう

◎ 収 録 高度成長を支えた鉄鋼住金の名が消えた

【From Kobe 8月盛夏 2019 ひまわりの夏】

fkobe1908.pdf

2019 ひまわり夏 2019 雑感

今年も田園一帯を真っ黄色に染める元気なひまわりに出会ってきました。

異常気象をひしひしとを感じる今年の夏

参議院選「嘲笑する政治」この夏 一番 私に響いた言葉 朝日新聞 2019.7.7.

【From Kobe 9 & 10月 初秋 Happy Autumn】

fkobe1909.pdf

10月 初秋の便り Happy Autumn From Kobe

◎ 収録新聞記事 朝日新聞 2019.9.27.朝刊 天声人語・オピニオン&フォーラムより

理念も目標も失いいまだに高度成長期の流れにしがみつく日本

国民に何も説明せず、みくだす横暴な仲間政治 これではよいのだろうか…

【From Kobe : 11月 秋便り】

fkobe1911.pdf

11月 秋便り Happy Autumn【2】From Kobe

◎ 収 録 この秋に思うこと 色々 この秋 何度か耳にした情報

多重・多様化をキーワードに《柔軟な社会造りへ舵を切る》

【From Kobe : 12月 師走の便り】

fkobe1912.pdf

12月 師走の便り 12月 令和元年師走の便り色々あった1年 また来年

◎ 収 録 師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉

四季折々・Monthly 神戸便り from Kobe 2019

2019 年 四季折々・From Kobe : 掲載記事ピックアップ

更新の折々 頭にあることを書き連ねた From Kobe も今年は毎度同じことの繰り返し。
地球温暖化が抜き差しならぬ時代 その自然の災害の猛威が直接我が身にも
そんな激動の中で 身勝手な政治に振り回され続ける定見なき日本 日本はどこへ行くのか・・・
この一年 書き綴ってきた文章を眺め、一年を振り返ってみると同じことを繰り返し、言い続けてきたようだ。
歳が平成から令和に変わり、大きなパラダイムシフトが世界で起こっている。
そんな中で日本はどこへゆくのか?未だに方向がみえぬ理由のわからぬ社会情勢。
先が見えぬ日本 そんな状況が今も続く一年だったと。
12月COP25 あのスウェーデンの16歳の若者が世界を相手にあれだけ地球危機を訴えている。
それも世界の首脳たちを前に堂々と。そんな問いかけにどうこたえればよいのか・・・
新聞の論調もここに来て 急激に変わってきた。
そんなことを感じる中で、**日本社会の読解力低下の記事**が出た。
科学技術立国・ものづくり世界一が もう誰の目にも由来で見え出した今 「**自立して物事を考え理解し判断する力=読解力**」がここ10年で大きく下落し、トップクラスから遠く離されてしまったと。
3月 小林喜光氏の「**平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか**」の記事に
ビックリして以来の強烈な日本へのパンチである。馬耳東風の日本 これで良いのか・・・
日本の今を振り返る一助になれば・・・と。ふれた年寄り風来坊のたわごとです。
下記の文は本年はじめの from Kobe に書き記した言葉である。

◆ 2019 年 年のはじめに 心も新たに 年のはじめの思い

日本人の心の故郷 「縄文」・そして太古から国土・海を豊かにしてきた「鉄」に思いをはせて
私がよく口にする「縄文帰り」・「日本人の心」、そして この変革の時代に新しい顔を見せる「鉄」

生命をつかさどる元素文明を支える元素として「鉄」がなければ人類は生きてゆけない
溶鉄の輝き「閃光」と鉄の黒光「肌光」その輝きの中に燦然と輝く「鉄」と人類の知恵の数々
人類が激変する地球を生き抜いてきた唯一の道・知恵が「他人を思いやる心」
かつて日本には「1万年の長きにわたって平和な社会を持続した形成してきた時代があった」
日本人の心のふるさとといわれる「縄文」そのエンジンは「縄文の心・他人を思いやる心」だった
「鉄」と「縄文の心」激変の今 時代を生き抜く唯一のエンジンである
現代社会においてはしばしば「なまっちふらい」と呼ばれ、切り捨てられてきた「心」
でも 一旦危機災害に直面した時には 誰しもがその力強さに心打たれる「心」
「鉄」も今 激変する時代の中で、新しい姿を見せ、新しい道を示し始めた。
「鉄は田舎なり」の「鉄」から「豊かな海を育てる豊饒な鉄」・「地球温暖化を軽減するかもしれない鉄」へ



望むと望まざるにかかわらず、躍動の時代から 成熟社会・人口減少の「激変の時代」へ
人類が幾たびも経験してきた絶滅の厳しい淵に立っている。

人類が困難を生き抜いてきた力それは「仲間を大切に思う心の進化」と「集団の協力」
約1万年の長きにわたって永続した日本の縄文はその実証例
幼くして歩けぬ障害をもった少女が、年老いるまで
集落の人たちに見守られ、生活を共にしてきた例が見つかっている。
「心優しき縄文人」「日本人の心の故郷」と言われる所以である。

また、「地球は鉄の惑星 もし 鉄が地球になかば、地球の生命体も生命を維持できず、存在しえない。
動物の血液中の鉄・植物の光合成にも鉄が関与しりせている。
山海の動植物の生態系も また「鉄」により、維持されている。

縄文の森を含め、太古の昔から、日本列島の沿岸には豊かな山・森があり、
最近「沿岸の山や森が豊かな海を育てる」「山は海の恋人」耳にするようになったが、
山に含まれている鉄分が森の植物によって、水に溶けこみ鉄となって、川を下り、豊かな海を育てる。
魚貝や海産物の資源の形成・生態系の循環には豊かな山や森の存在が欠かせぬことが明らかになっている。

ここでも「他人を思う心」・「集団の協力」をエンジンにした地方自立循環型経済創生・豊かな海や森の
資源開発が進められている。

鉄の惑星 激変する危機を生き抜くエンジンは「他人を思いやる心」
幸福への岐路にある今 スピード・情報過多の情報社会の流されず、自らをじっくり考えよう。
そこに地球に生きる仲間みんなの共存再生の道がある。
「心優しき縄文人」「分かち合い」の多様性 そして 沖縄には「命こそ宝」の言葉もある。

終活が頭にちらつく我々だからこそその役割もあると信じて今を前向いて
わが道をゆく God Be With You!!

また、本年こそ日本の縄文に 世界遺産の道が開かれますよう 期待を込めて

2019.1.1. Mutsu Nakanishi

一年経っても世界情勢 社会に大きな変化が見られず、特に日本ではひたすら高度成長期の成功体験にとらわれ、高度情報化のうねりの中 競争と効率を追い求める同一均質化の社会を未だに追い求め、多様・多質の柔軟な社会に鍛冶が切れないでいる。

景気は一向に良くなりえず、格差はますます増大する中、高齢化は急速に進み、不安感が漂う社会。そんな中で 美辞麗句の薄っぺらな掛け声に酔いしれ、自分さえ良ければ・・・と。

掛け声とは裏腹の薄っぺらな高度情報社会に はっと気がつく。

日本はこれからどこへゆくのか・・・ そんな思いを書き綴った本年の from Kobe 雑文。

1月 [心の故郷「縄文」と「鉄」に思いを馳せて](#)

3月 経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介2019.1.30 朝日新聞朝刊
「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

4月 兵制からたらしい年号「令和」が発表された1日 [高度成長を支えた鉄鋼住金の名が消えた「平成」の総括から「令和」の新時代へ](#)

7月 経験したことのない初夏 目まぐるしく変わる気象変化に負けぬよう

8月 [2019 ひまわり夏 神戸便り](#) 雑感 異常気象をひしひしと感じる今年の夏
参議院選「嘲笑する政治」この夏 一番 私に響いた言葉 朝日新聞 2019.7.7.

10月 [朝日新聞 2019. 9.27.朝刊 天声人語・オピニオン&フォーラムより](#)
大きなパラダイムシフトが進行する国際情勢の中で、国民に何も説明せず、みくだす横暴な仲間政治
理念も目標も失いいまだに高度成長期の流れにしがみつくと日本 これではよいのだろうか…
なぜ、日本では新しい雇用・ビジネスを生みだす先進事業・企業が生まれない。

11月 この秋に思うこと 色々 この秋 何度か耳にした情報
効率化・選択と集中 行き過ぎた資本主義は人々を幸福にしない
GAFA グローバルな巨体企業の存在は富を集中し、富の分配がなされない
多重・多様化をキーワードに《柔軟な社会作りへ舵を切る》パラダイムシフトの波がおこりはじめた

12月 [師走の今 本年を振り返って 心に響いた言葉](#)



新聞の論調も今 急激に変わってきた。

一度耳を傾け、日本の今を振り返る一助になれば…と。

また、日本の縄文をもっと知ってほしいと言いつけてきましたが、やっとまたユネスコ世界遺産登録の土俵に。最近 縄文についての記事や解説が新しい視点で語られるようになったのもうれしい。

いろんなことがあった一年 あれもこれもとあたまを駆け巡り、令和元年が暮れてゆく・・・・・・・・・・..
早く若ものの時代へ舵を切れ!!との思いです

来年こそ 令和の新しい時代と 誰もが実感できる明るく平和な時代になってほしいと。

20019.12.31. 2019年 四季折々 和鉄の道を振り返って

2019 本年を振り返って 心に響いた言葉 From Kobe 12月より

2019.12.8. Mutsu Nakanishi

師走になって、ことし一年を振り返って その時折々 書き綴った季節の便りの中でお送りした言葉。ほんとうに毎回 同じ言葉ばかりでした。

インターネットやニュースでは、今が一番と社会への満足を謳歌する言葉・番組があらわれるが、何とはなしに息苦しく閉塞・不安が漂う社会。なにか自分には合わない。ついていけないなあ・・・と。後期高齢になって非生産的な日々を送る今 取り残されているとの不安感が頭をよぎる。

「でも ほんまにええのか・・・ 現実はどうだろう・・・」

そんな師走の中で発表された OECD が3年ごとに行う世界各国の15歳を対象とした学力総合調査。(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの3分野)で、高い学力を維持しているものの、日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。日本の現在の社会に与える強烈なアッパーカットである。教育の問題 子供の問題と過少評価する向きもあろうが、この問題今の日本の現実 社会の問題。日本が一人 国際社会から取り残されてゆく深刻な姿が映されている。でも 日本社会はそれに気が付かない。

15歳 ネット情報精査が弱点

OECD 国際調査

日本、「読解力」続落15位

15歳 ネット情報精査が弱点

日本、「読解力」続落15位

天声人語

南米沖のイースター島は巨大なモアイ像で知られる。住民は像の運搬に木材を使ったはずだが、森はその後すっかり消失した。ネズミによる害害か、それとも住民が乱伐したせいかわ。世界の15歳が挑んだ国際調査PISAの出題例である。鳥の森林消失の理由を論じた資料を並べ、どの説が正しいか論拠を書かせる。筆者も解いてみたが、出題意図がつかみにくい。採点してさらに驚いた。食害が乱伐かのどちらかだろうと思いきや、「両説とも十分、さらなる研究が待たれる」とも正解とされた。調査に参加した日本の高校生たちは、さぞ冷や汗を流したことだろう。筆者の世代は教室で出会うことになった設問形式である。しかも紙と鉛筆ではなく、コンピューター画面上で解かれたと聞き、同情を覚える。▼「学校では優秀生だったのに就職後はさえない人がいる。それはなぜなのか」。数年前、取材したPISAの担当者から言われた。「細かな知識はネットですぐ得られる。知識よりも、知恵を出して事態を突破する力が求められています」。熱のこもった口調だった。▼2003年調査で日本は大きく順位を下げ、激震が走った。今回も「読解力」が低下した。中国都市圏が好成績なのはなぜか。日本のデジタル教育はなぜ遅れるのか。結果に振り回される必要はないが、今後はそんな究明が欠かせない。▼自分が学生時代に受けた試験との「勘違い」のあまりの遠いと考え込む。学校とは何なのか。根源的な問いを突きつけられた。

2019.12.4. 朝日新聞が伝える OECD の15歳学力調査結果と天声人語の記事

◆拡大記事 URL: <https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/OECDasahikiji191204a.jpg>

無知盲目の仲間を募って 数の力でなんでも押し切る刹那の社会 美辞麗句を並べ 中身はそっちのけ
なんでもかんでも 自己責任に転じる。 自分の政策を「・・・ミックス」と自ら声高に言いまわるのは
自己陶醉そのもの。

セーフティーネットがずたずたになった国土・地方は疲弊し、ますます格差が広がる刹那日本の情報社会
この秋 30 歳 40 歳の働き盛りの給与水準は 10 年前の給与水準よりも 10%以上低下しているとの
統計が発表されている。その上 消費税は 10%に。 一方会社は好景気を謳歌し、高収益・内部留保
をため込んでいる。そして 人手不足が深刻だという。全く不思議な現実。

これは人為的な政策の代物の何物でもない。

片手間の非正規雇用対策ばかりでなく正規雇用の拡大 そして何よりも働く場・新しい雇用を生み出す産業創生
に注力せねば・・・。

でも 新産業創設の研究開発費の投入・分配の見識のなさは目に余る。

もう技術立国は影薄く、大企業は今の事業路線にしがみつきの、次の事業がない。

これでは新しい雇用は生まれない。もう 大企業依存・イベント依存から脱却せねば…

湯水のごとく民衆の懐に手を入れて使う国債・消費増税頼みも限界に……………

昔はよかった…との言葉も聞かれるようになった今、もう 破綻寸前と映る

もっと 皆が明るい社会にならないものか…そんなことばかり言ってきた一年だったと映る。

そんな師走の中で発表された OECD が 3 年ごとに行う世界各国の 15 歳を対象とした学力総合調査
(読解力・数学的リテラシー・科学的リテラシーの 3 分野)で、数学・科学の分野では高い学力を維持しているが
日本の読解力が大幅に低下したと伝えている。「リテラシー」とはなにか…また読解力の問題とは…………
インターネット等で調べると、原義では「読解記述力」を指し、転じて「適切に理解・解釈・分析し、改めて記述・表現す
る」という意味に使われるという。

要は社会全体の活力の源泉 知識は非常に高いレベルであるものの 知恵・判断・確かな行動アプローチが出来
ないといわれ、社会の活力が失われているとの警鐘。

常々 多くの人が指摘する日本社会の課題と現状があからさまに国際的にも指摘された。

国際社会がし認める国力の先行きを示す重要な指標でと言える。

強がりはいうまい。 今日本の現実はこちらなのだ……と。 そう思うと本当にいろんなことが見えてくる。

この一年 日本で起こった数々の問題の根源にこの指摘が当てはまる。

◎ 読解力と「リテラシー (literacy)」とは、

読み書きができる能力や、その分野の応用、活用力、理解力を意味。

「リテラシー」は、単独でその言葉だけを使うことは少なく、「コンピューターリテラシー」や
「メディアリテラシー」「環境リテラシー」といった風に使うという。

◎OECD 調査 読解力の設問

解説を含め 2019.12.4. 詳細が示されている東京新聞の記事を紹介する

「ラパヌイ島」と題する設問

ラパヌイ島（イースター島）で調査をしている教授はブログで、

モアイ像が作られた当時にはあった大木が現在は生えていないことに疑問を示す。

木の乱伐が原因とするジャレド・ダイヤモンド氏の著書「文明崩壊」の書評、

ネズミが種を食べたためとする科学者の反論を紹介する記事があわせて示される。

生徒たちはそれら三つの文章を読み、大木が消滅した理由を根拠を挙げて説明することを求められる。

自らの可能性を広げ、社会に参加するために文章を理解して熟考し、考えを表現する力。

それが OECD が提示する読解力だ。……………

三年ごとの調査結果は教育政策に大きな影響を及ぼしてきた。

ゆとり教育転換の一つの契機は、読解力などが低下傾向にあったことだ。

2007年に再開された全国学力テストの出題はPISAを強く意識したものとなっている。

202年度から本格実施される高校の新学習指導要領では国語を「論理国語」「文学国語」などに再編する。文学が片隅に追いやられるのではないかと文学界などから懸念の声が上がっている。

調査では読書についても尋ねており、興味深い分析結果が出ている。

雑誌以外では「読む」グループの方が「読まない」グループよりも得点が高く、

最も得点差が大きいのは小説や物語などのフィクションだった。次いで新聞、漫画となっている。

「論理的」と仕分けされた文章だけが、読解力を育むとは限らないことを示唆しているのではないか。

読解力は、多様な養分を吸収してゆっくり育つ木のような力なのだろう。

読解力育成のため、社会や理科など国語以外の教科でも、文章のまとまりなどを意識した授業改革に取り組み始めた学校もある。調査の順位のためというよりは、子どもたちの未来を広げるために、学校や社会が豊かな養分を含んだ土壌でありたい。

インターネット記事検索でみつけた東京新聞 2019.12.4. 記事より 全文整理

これは今の学校のOX式詰め込みの受験教育の中では最初から設問に詰まって解けないわ……と。

でも 一部の私学では そんな読解力中心の国語授業が行われ、他の授業と連動されているとの話を聞いて、余裕があるなあ。。。と感心したこともある。

天声人語氏は「細かな知識はインターネットで得られるが、知識よりも知恵を出して、事態を突破する力が求められる」というOECD担当者の言葉を紹介している。日本に一番今かけている点との指摘。

知識がいやというほど積み込まれていく日本の今の画一的な教育への痛烈な一発である。

みんながみんな社会全体が同じ方向にむけた発展途上の高度成長と成熟した今の情報社会には当然違いがある。

今の時代 一部の人に情報が限らず 同じ情報を広くみんなが持っている。そこに 多層多重の芽があり、それを封じて 同一を強いられることに息苦しさを感じるし、異を感じる時代なのである。で

も 日本では今 あまりにも「不思議ななあ」「おもしろいな」などの発想や知識から広がる「知恵」がない。

付和雷同 感激・感動ではなく盛り上げの言葉が空虚に響く。

知った知識を少し披露しただけで「それがどうしたの…… ああ めんどくさ」との言葉がすぐに。

知識から知恵・発想への転換が全く無視され、同一同調が一番される日本昨今の情報社会。

なにも子供たちの教育問題だけではない。今の日本の社会全体がそうになっているのだ。

とりわけ、日本を動かしてきた政治・大経営者たちの言動をみれば一目同然……

ほかにも この12月 心に響いた記事がいくつかありましたので、転記。

この秋 重多様な社会への脱皮について、それぞれの個性を意識する多様多重社会の醸成を考える本や新聞記事・番組に数多く出会うことがあり、自分にはできなかった反省も込めて。

特にあまりに個性豊かで 仲間・先生・学校での集団生活に溶け込めず、「好きなことを 好きに 好きな時に」とその都度 自分の実学ノートに記してきた7年間の記録をひも解くNHKの番組NHK「ボクの実学ノート 7年間の小さな大冒険」で語られた 生物学者福岡伸一さん著「エリボシカミキリ」の中にある言葉やこの秋読んだ「ソーシャル・マジョリティ研究 コミュニケーション学の共同創造」にも心に響きました。

また、本年は仲間がみんな後期高齢を迎え、老化と向き合う歳に。

老化と闘い、また先に逝ってしまった仲間もいる。この秋は仲間を思い浮かべながらの毎日散歩になったことも数多し。

でも まだまだ好奇心もあり、足も動く。家族仲間もいる。勝手気ままな風来坊 神戸の片隅で 皆に世話になりながら 勝手気ままにと。

本年どうもありがとうございました。 また来年。

From Kobe Mutsu Nakanishi



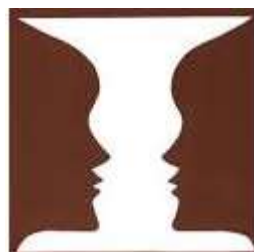
<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/1912yoshino.jpg>

◆ 金子書房 「ソーシャル・マジョリティ研究 -コミュニケーション学の共同創造-

発達障害者の側から ソーシャル・マジョリティ(社会的多数派)のルールやコミュニケーションを研究しました。
 「障害は個人の中にあるのではなく、多数派が作った社会と少数派の身体特性の間に生じる」
 なにかよくわからぬまま発達障害者とかたずけられ、排除される人が多数いる
 その人たちは社会的多数派のルールやコミュニケーションについてゆけないだけである。
 逆に社会多数派があまり意識していないが、社会的多数派のルールやコミュニケーションが多数あることを
 理解し、そんなルールなどを障害者側に立って研究することで理解が深まれば、
 お互いのコミュニケーションを生むことが出来て、より良い関係を生むことが出来る。

だまし絵 真実は一つなのか……

多数派のおごり by Mutsu Nakanishi



絵の中にだまし絵という世界がある。

このだまし絵 人のその時々感情・事情によって見え方が違う。
 今 画一的になんでもかんでも AI に任せて判断させようとする。
 知能ロボット万能論が伝えられている。
 でも この知能ロボットにだまし絵を見せて アクションを起こさせたら、どんな反応をするのか???

興味津 AIの判断万能を唱えるのは間違いではないか……

上記したソーシャル・マジョリティ研究の理解にも このだまし絵の理解が欠くことが出来ないと思っている。
 そもそも 現世人類が幾多の困難を乗り越え、
 生き抜いてきた所以は相手の表情で共感・感応を醸成してきたからに他ならない。